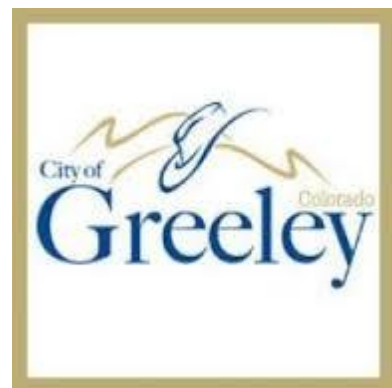


2018

第28回守谷市青少年海外派遣事業報告書

平成30年7月23日(月)～7月31日(火)



守谷市

目 次

● 守谷市長あいさつ	
● 守谷市国際交流協会会長あいさつ	
● 第28回守谷市青少年海外派遣団員名簿	1
● 事前・事後研修日程	2～3
● 海外派遣日程	4
● ホストファミリー名簿	5
● アメリカ・グリーリー市周辺地図	6
● 思い出の日記	7～14
● 派遣団員報告書	15～37
● フォトメモリー	38～39
● 保護者の声	40
● 編集後記	41

未来に向かって



守谷市長 松丸 修久

第28回守谷市青少年海外派遣も、多くの皆様のご協力により無事に実施することができました。グリーリー市への派遣は、この夏で16回目となり、ゲイツ市長はじめ、派遣団を快く迎えてくださったグリーリー市民の皆様の、いつも変わらぬ温かいおもてなしに、心より感謝の意を表したいと思います。

今回、派遣された団員の皆さんは、優しさと温かさにあふれたホストファミリーと一緒に有意義な日々を過ごし、多くのことを学ぶことができたようです。また、グリーリー市民の心からの歓迎に触れ、多くの人たちへの感謝の気持ち、意思を伝え合うことの喜びと大切さ、そして言葉の違いを越えた人と人とのつながりを改めて感じたことでしょう。さらには、コロラドの大自然の中で過ごすことで、アメリカの広大さを肌で感じることもできたと思います。

団員の皆さんには、この9日間を通じて得た貴重な体験を生かし、自ら描く未来に向かって力強く歩いていてもらいたいと思います。そして今後も、ホストファミリーをはじめ、この事業を通して出会った方々との交流を大切にいただき、異文化への理解と友情の絆をより一層深められることを期待しております。

結びに、本事業を実施するに当たりご協力をいただきました守谷市国際交流協会をはじめとする関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。



友好の架け橋へ

守谷市国際交流協会会長 小川 一成

第28回守谷市青少年海外派遣事業が、無事成功のうちに終わられたことをお喜び申し上げます。

平成2年にこの事業が始まって以来、守谷市国際交流協会は全面的に支援、協力してまいりました。それは、当協会が目標とする市民の交流を通しての国際交流という観点にこの事業が合致しているためであります。

守谷市の代表として、感性豊かな10代のうちにアメリカの異文化や大自然、それ以上に異国の方々との心と心の触れ合いを感じてきたことは、これからの人生において財産になることでしょう。今回、グリーリー市を訪問した皆さんは市民の気持ちに触れ、アメリカという国に好印象を抱くとともに、お世話になったホストファミリーに対し、感謝の気持ちとともに帰国したことを思います。今後、グリーリー市民の方々が学生訪問団として守谷市に来市する際には、是非、受入家庭となり、さらなる交流を深めていただきたいと思います。そして、当協会の活動にも積極的に参加していただき、国際交流における友好の架け橋となっていいただきたいと思いますと考えております。

当協会は、今後も異文化体験の機会を増やし、より広い視野をもって物事を捉え、考えることのできる素晴らしい好機を提供するお手伝いを続けてまいります。

結びに、守谷市と姉妹都市グリーリー市との交流が益々発展することを祈念申し上げます、御挨拶と致します。

第28回守谷市青少年海外派遣団員名簿

●団員

氏名		学校名	学年
畑崎 香奈	はたざき かな	守谷市立守谷中学校	中 1
荒川 武尊	あらかわ たける	守谷市立御所ヶ丘中学校	中 1
久保田 智博	くぼた ともひろ	守谷市立けやき台中学校	中 2
齊藤 夢七	さいとう ゆな	守谷市立けやき台中学校	中 2
平林 優里	ひらばやし ゆり	茨城県立竹園高等学校	高 1
中村 叶恵	なかむら かなえ	江戸川学園取手高等学校	高 1
谷口 日菜	たにぐち ひな	茨城県立牛久栄進高等学校	高 2
登内 洸陽	とのうち こうよう	茨城県立竹園高等学校	高 2
新田 悠磨	にった ゆうま	茨城県立竹園高等学校	高 2

●引率者

氏名		所属
川村 玲子	かわむら れいこ	守谷市国際交流協会
塚田 早紀	つかだ さき	守谷市役所総務部税務課

H30青少年海外派遣事業 事前・事後研修カリキュラム

事前研修(全6回)				
月 日	曜日	時間	内容	場所
6 月 3 日	日	9:00～	挨拶, 自己紹介 提出物, スケジュール等の説明	市役所 大会議室
		9:20～	旅行業者説明(株式会社近畿日本ツーリスト)	
		10:10～	海外派遣保護者の体験談(北島さん)	
		11:00～	講話「海外派遣の心構えと今後の活動について」 講師: 守谷市国際交流協会会長 小川 一成氏	
		11:30～	昼食	
		12:30～	アイスブレーキングゲーム ～ちょっとドキドキ!? 心の壁を打ち破れ♡～	
		13:40～	リーダー・副リーダー選出 フェアウェルパーティーについて	
		14:10～	ホームステイ中のスケジュールについて	
		15:15～ 16:00	こんな時どうする?	
6 月 9 日	土	14:00～	英語で自己紹介しよう! アメリカでの生活 ホームステイの心得・英会話 講師: 茨城県立守谷高等学校ALT エルさん	市役所 大会議室
		16:00～	国際交流活動に関する講演会に参加	
		18:00～ 18:30	諸連絡(宿題・次回の研修等)	
6 月 23 日	土	14:00～	講話「グリーリー市について」 講師: 平成28年度青少年海外派遣事業 団長 鈴木 亮子さん	市役所 中会議室
		15:30～	海外派遣団員の体験談①(H26派遣団員 小玉さん)	
		16:30～	フェアウェルパーティーの準備・練習	
		18:00～ 18:30	諸連絡(宿題・次回の研修等)	

月 日	曜日	時間	内容	場所
7 月 7 日	土	14:00～	家族を英語で紹介しよう！	市役所 大会議室
		14:30～	海外旅行の注意点と荷造りについて	
		15:00～	コミュニケーション・スキル	
		16:00～	海外派遣団員の経験談②(H29 派遣団員)	
		16:30～	フェアウェルパーティーの準備・練習	
		18:00～ 18:30	諸連絡(宿題・次回の研修等)	
7 月 16 日	月	14:00～	講話「国際化ってなんだろう？」 講師:指導室 西尾 直美さん	市役所 大会議室
		15:30～	考えてみよう！守谷, 日本の魅力	
		16:15～	フェアウェルパーティーのリハーサル	
		18:00～ 18:30	諸連絡(宿題・次回の研修等)	
7 月 21 日	土	9:00～	諸連絡, 荷物の確認	国際交流 研修センター (ログハウス)
		10:00～	サンキューカードの作成	
		11:00～	フェアウェルパーティー最終確認	
		12:00～	昼食	
		13:00～	出入国時について(近畿日本ツーリスト)	
		13:20～	フェアウェルパーティーの練習	
		15:30～	ホームステイの注意点おさらい	
		16:00～	諸連絡(出発日・帰国日について)	
		16:15～ 17:00	出発直前発表会	
事後研修				
8 月 10 日	金	14:30～	提出物の確認	市役所 中会議室
		14:50～	ホームステイの振り返り	
		15:30～	団員間での情報共有	
		16:00～	団長・引率・担当職員からのメッセージ	
		16:45～ 17:00	解散式	

海外派遣日程

日程	プログラム
7/23(月)	結団式→成田空港へ出発→成田空港→✈UA142（17:15 発） →デンバー空港到着→グリーリー市へ移動→夕食→ホテルへ
7/24(火)	・北コロラド大学見学ツアー ・ホストファミリー対面式
7/25(水)	・グリーリー学習センター ・グリーリーコミュニティセンター
7/26(木)	ファミリーファンプレックス（プール，ミニゴルフ）
7/27(金)	・Scheels と Centerra でショッピング ・ホストファミリーと過ごす 野球観戦（コロラド・ロッキーズ VS オークランド・アスレチックス） 劇場鑑賞など
7/28(土)	終日ホストファミリーと過ごす
7/29(日)	・ホストファミリーと過ごす ・フェアウェルパーティー
7/30(月)	デンバー空港→✈UA143（15:20 着） （機内泊）
7/31(火)	成田空港到着→市役所へ→帰国報告会→解散

ホストファミリー名簿

団員氏名	ホストファミリー
畑崎 香奈	Ader and Herrera Family
荒川 武尊	Evans Family
久保田 智博	Gamblin Family
齊藤 夢七	Gibson Family
平林 優里	Wood Family
中村 叶恵	Scott Family
谷口 日菜	Noel Family
登内 洸陽	Thurman Family
新田 悠磨	Casseday Family

引率者氏名	ホストファミリー
川村 玲子	Norem and Magnuson Family
塚田 早紀	Jakus-Hotchkiss Family

アメリカ・グリーリー周辺地図



アメリカ合衆国

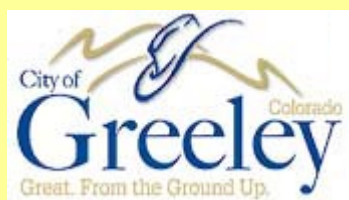
United States of America

面積 9,629,021 平方 km

人口 約 3 億 2 2 0 万人

(「世界の統計 2016」総務省統計局)

首都 ワシントンDC



コロラド州グリーリー市
City of Greeley





思い出の日記



6月3日(事前研修①)

これから一緒にアメリカへ行く仲間達との初めての事前研修。初めてということで期待もありましたが、みんな少し緊張していました。MIFAの小川会長の海外派遣の心構えについてのお話では、今回の事業の目的や自分の将来について深く考えさせられ、派遣団員としての強い

自覚を持つことができました。また、お昼休憩やアイスブレイキングゲームを通してみんなと少しずつ話して仲良くなり、すっかり緊張も解けました。

お昼の後にはフェアウェルパーティーの出し物について話し合い、積極的に意見を出し合いながら協力して取り組みました。そして、みんなが楽しみにしていたホームステイ先の家族が発表され、ようやく実感が湧いてきて、アメリカへ行くのがますます楽しみになりました。
(平林 優里)



6月9日(事前研修②)



この日の研修では大きく分けて2つのことをしました。

1つ目は、アメリカでの生活、ホームステイの心得、ホームステイの英会話について、ゲスト講師のエルさんに教えて頂きました。英会話では何でも良いことでも、反応することが大切だと教わりました。「Cool!」は、便利な言葉だそうです。アメリカでも使ってみようと思います。

2つ目は、世界一周をした方のお話を聞きに行きました。たくさんの方の国について教えて頂き、やはり世界にはまだまだ自分の知らないことがたくさんあるのだなと感じました。アイデンティティを忘れずに、どんなことにも挑戦していくことが大切だとおっしゃっていました。私たちは今共に研修を受けているこの派遣団員で、約1週間海外に行きますが、その方は同行する人もなく、日本語が

通じない中、一人で約1年も旅をしていました。私も世界を見てみたいと思いますが、実際に世界一周をすることはとても勇気のいることだと思います。それを実際に行った人の講演会に参加することが出来て、良い経験になりました。

(谷口 日菜)

6月23日(事前研修③)

3回目の研修にもなると、団員同士の緊張が解けてきて、最初は不安でいっぱいだった気持ちも和らぎ、互いに会話をするこも増えてきました。この日は、私達が行くグリーンリー市についてみんなで学んだり、過去に海外派遣に参加した方からのお話を聞いたりしました。また、フェアウェルパーティーの打ち合わせも着々と進み、少しずつではありますが、形になってきました。これらのことを通して、ホームステイする日が近づいてきていることを感じました。

(中村 叶恵)

7月7日(事前研修④)

この日は主にフェアウェルパーティーの準備をしました。前回話し合ったことをもとに、さらに具体的な意見を出し合いました。そのときに、どうしたらホストファミリーに喜んでもらえるかなども真剣に考えました。話し合いには多くの時間を使いましたが、今までの研修の中で1番内容の濃い話し合いになりました。また、団員全員の結束が一気に深まったと思います。話し合いが多かったので、年齢や学校関係なくみんなとだんだん気さくに楽しく話せるようになりました。

また、話し合いの後はフェアウェルパーティーのリハーサルをしましたが、そこに過去の団員の方が来てくれてゲームに参加してくれました。さらに過去の団員の皆さんからアドバイスをもらい、とても助かりました。

それから、英語で家族の紹介の練習はとてもためになりました。私は、アメリカのホストファミリーに家族の紹介をするとき、絶対に緊張してしまうと思ったので、まず団員の前で紹介する練習ができて良かったです。

(齊藤 夢七)



7月16日(事前研修⑤)



今回の事前研修ではスペシャルゲストの西尾直美先生の講習，日本と守谷の魅力を考えること，フェアウェルパーティーのリハーサルに時間を使いました。

まず西尾先生のお話では「国際化とは何か」を掘り下げて考えてみました。その中で他の団員と交流し，それぞれの国際化に関する意見を深め合うことができました。また，西尾先生が海外に行ったときの経験からもたくさんのことを教えてもらいました。

次に日本と守谷の魅力を考えました。以前の研修で宿題になっていたものでそれを一人ずつ発表し，日本と守谷の魅力を団員みんなで改めて考えていきました。一人ひとり発表することで，自分では考えもつかなかった意見が出て，新たな魅力を発見し，各団員が共有することができて大変良かったと思います。

最後にフェアウェルパーティーのリハーサルを行いました。各団員がリハーサルを振り返って変更すべき意見が多数出ました。また，観客役として見学してくれていたスタッフの皆さんからアドバイスをもらい，内容を修正しました。その後もリハーサルと修正を繰り返し行ったので，本番のフェアウェルパーティーで大成功を収めることができたのだと思います。

スペシャルゲストとして参加してくれた西尾先生，本当にありがとうございました。有意義な活動ができた5回目の事前研修でした。（荒川 武尊）

7月21日(事前研修⑥)

ついに出発を2日後に控えた7月21日，私たちは最後の事前研修を行いました。スーツケースの中身も確かめ，「これ持って行くといいよ！」などアドバイスをし合いました。フェアウェルパーティーの練習では，立ち位置などの改善点を見つけて直しました。そのリハーサルを各団員の保護者にも見てもらいました。本番では，ホームステイ中にお世話になったホストファミリー宛てにサ



ンキューメッセージを読むことになっていましたが、今回のリハーサルではせっかく保護者に来てもらったということもあり、サプライズで保護者宛てのサンキューメッセージを準備し、読みました。あと2日でホームステイ！！たくさんの思い出を作って来たいです！！
(畑崎 香奈)



7月23日～25日(結団式～成田空港～グリーリー)



23日

家族に見送られ、みんな興奮した面持ちでバスに乗り守谷を出発しました。そして夕方の便でアメリカへ旅立ちました。

10時間の快適なフライトを経てデンバーに到着したのは同日の同時刻で、初めて時差を体感しました。空港からグリーリー市内へ向かうバスから見た物の全てのスケールが大きく目を見張りました。

24日

午前中は北コロラド大学を見学しました。広大な敷地に様々な研究施設や学生寮、お店やジムまでありました。日本人の教授もいて、海外で活躍している人たちの話を聞くことができました。午後はホストファミリーとの対面式がありました。みんな少し緊張した様子でしたが、ホストファミリーの方々に温かく迎えられ、それぞれの家庭に向かいました。





25日

午前中はグリーリー学習センターに行き、川で生物採集を体験しました。胸まである川用のつなぎを履いてグリーリーの自然と触れ合いました。その後はグリーリー市内の児童館を訪問し、地元の子ども達との交流を楽しみました。同世代の外国の方との交流というとても貴重な体験でした。
(新田 悠磨)

7月26日～28日

26日

この日は各自のホストファミリーの家からファンプレックスという施設に集まって、一日中スポーツを楽しみました。

まず、体育館でバスケットボールとバレーボールをしました。ホストファミリーの子どもたちも参戦してとても楽しい試合になりました。

その後は外に出てゴルフをしました。天候にも恵まれ、たちまち汗と笑顔が吹き出しました。ゴルフ場は滝やトンネルなどの仕掛けがあり、綺麗で面白い所でした。

昼食はグリーリー市の方が用意してくれた焼肉で、思い思いにハンバーガーやホットドッグを作って食べました。

食後に入ったプールは素晴らしい場所で、急斜面のウォータースライダーや深さが3m以上もあるプール、流れるプールを満喫しました。



27日

次の日は2カ所のショッピングセンターでショッピングを楽しみました。

1カ所目には観覧車があり、上からの景色は気持ちの良いものでした。また、本物の銃やナイフがいくつも売っていて、日本との違いを目の当たりにしました。

夜は有志の人がホストファミリーと

一緒にデンバーヘメジャーリーグを見に行きました。日本より試合の応援が激しく、球場にいる人全員が一つになって試合を楽しんでいました。試合終了は夜遅くになりましたが、全身で野球を楽しみました。

(久保田智博)

28日

この日は終日ホームステイで、各団員はホストファミリーと過ごしました。

7月29日～30日(フェアウェルパーティー～成田空港～帰国報告会)

29日

あっという間に一週間が経ってしまい、ついにホームステイ最終日となってしまいました。フェアウェルパーティーの出し物では事前研修で何回も練習した成果を発揮することができ、みんな最高の笑顔でした。サンキューメッセージでは一週間のたくさんの思い出が蘇りました。

(平林 優里)



30日

バスに乗って空港に出発するとき、ホストファミリーが来てくれてハグや思い出話をしました。みんな、一週間お世話になったファミリーに最後まで手を振っていました。とても感動的な最後になりました。

(齊藤 夢七)

31日

アメリカから帰国し、日本へ戻って来ました！！飛行機から降りると、ものすごく蒸し暑く「ああ、日本だなあ」と思いました。市役所に戻って、帰国報告会を行いました。各団員が一言話す場面では、全員が良い経験だったと話しました。この夏が人生の起点となったのではないかと思います。（畑崎 香奈）



8月10日(事後研修)

アメリカから帰国して10日ほど経った8月10日、守谷市役所中会議室で事後研修が行われました。事後研修ではまず、各団員がホームステイで体験したアメリカの文化、自然、食事等の感想を話し合いました。皆、意気揚々と話し、海外派遣を通して様々なことを経験することが出来たのだと感じました。その後、市役所の方から国際交流を続けて欲しいというメッセージがあり、団員それぞれが今後の目標を発表しました。

このような貴重な経験をさせてくれた守谷市、グリーンリー市、ホストファミリーの方々、自分の家族に感謝し、今回の国際交流で学んだことを今後の人生に役立てていきたいと思います。（登内 洸陽）



派遣団員報告書

畑崎 香奈

荒川 武尊

久保田 智博

齊藤 夢七

平林 優里

中村 叶恵

谷口 日菜

登内 洸陽

新田 悠磨

川村 玲子（団長）

塚田 早紀（引率者）



守谷市立
守谷中学校
1年 畑崎 香奈

アメリカで挑戦したこと

私がアメリカで挑戦したことは、「とにかく喋る！！」ことと、「ホストファミリー以外にも友達をつくる！！」ということです。アメリカに行く前は、「できるかな??」と不安もありましたが、いざアメリカに行くと1週間という短い期間で喋ることも友達をつくることもできたので、すごく嬉しかったです。次にアメリカに行った時は、もっともっとお喋りをして、たくさんの友達を作りたいです。

私のホストファミリー

私がステイしたホストファミリーは、8人家族でした。なので、名前を覚えるのが大変でした。ホストファザーのロバートは、親切で優しかったです。送り迎えをしてくれた時に、2〜3台がポルシェだったのですごくびっくりしました。ホストマザーのアナスタシアは、優しく、料理が上手でした。朝ごはんに出た、パンケーキやスクランブルエッグがものすごく美味しくて、もう一度食べたいです。ヘイリーは、面白くて私にいつも気遣ってくれました。バッティングセンターに行くと、バッティングがすごく上手くてびっくりしました。ケンリーは、可愛くて私にすごく優しくしてくれました。コールは面白くて、一緒にやったトランポリンがすごく楽しかったです。ケネディーは可愛くて、すごく面白かったです。グレイスは、とにかく可愛かったです。いつもニコニコしていて、幸せそうでした。マックスは面白くて可愛くて、「一緒に遊ぼう！！」と、たくさん声をかけてくれて嬉しかったです。この8人家族のお家にステイできて良かったです。

大変だったこと

ホストファミリーと会ってすぐ、お土産大事件が起こりました。ホストファザー、ホストマザーはともかく、子ども用のお土産が大変でした。

日本を出る前に市役所の人やお母さんに聞いたら、男の子3人と女の子3人と聞いていたのですが、実際に行くと男の子2人と女の子4人でした。お土産は、男の子と女の子で分けていたので変えたりするのが大変でした。



たくさんの人との交流

私はこの夏、1週間という短い期間アメリカで色々なことをして、たくさんの思い出が出来ました。ホストファミリーと初めて会った時は、少し緊張していましたが、1週間もすると緊張はなくなり楽しめました。初日はあまりアメリカという実感がなかったけれど、2日目になり、ホストファミリーと会えると、だんだん「アメリカだなあ」と思ってきました。

3日目には川に入りました。すごく涼しくて気持ちよかったです。そこで違うお家の子とお友達になりました。たくさん喋ってすごく楽しかったです。4日目は、ファンプレックスでミニゴルフやプールをしました。中でも1番は、バスケットをしたことです。みんなのホストファミリーと一緒にバスケットをして、みんなの仲が深まってすごく良かったです。

5日目は、みんなでショッピングに行きました。最初に行ったショッピングモールには、観覧車があり、ヘイリーという女の子と一緒に乗りました。ショッピングは、あまりしなかったけど楽しかったです。6日目は、川にカヌーに行ったのですが、雷が鳴り始めたので帰ってきました。帰ってきたら、ジャグジーに入り、ゆっくりしました。午後は、みんなでトランポリンをしました。すごく楽しくて最高の時間でした。夜は、ゴリラが出てくる映画を見て、衝撃が強めだったけれど最後は面白かったです。

7日目は、いよいよフェアウェルパーティーの日です。午前中は、プールに行きました。楽しかったです。フェアウェルパーティーでは、ゲームなども順調に進み、良かったです。サンキューメッセージの時は前に読んだ子が泣いて、もらい泣きしそうになりました。

この一週間、私はこのような経験が出来て本当に嬉しかったです。私にとってこの夏は、人生の起点になったと思います。ホストファミリーをはじめ、グリーリーの方には、すごくお世話になりました。この貴重な経験を活かし、今後の国際交流や将来に生かしていければいいと思います。本当に充実した1週間でした。





守谷市立
御所ヶ丘中学校
1年 荒川 武尊

アメリカで挑戦したこと

僕の英語能力は基本的な挨拶程度です。そんな僕がアメリカに行くこと自体が挑戦だと思いますが、僕の挑戦は、外国人とコミュニケーションを取ることです。普段あまり使わない英語は、やはりホームステイ先ではすぐには出てきませんでした。ここからが僕の挑戦です。知っている英単語やジェスチャーを組み合わせ、コミュニケーションを取りました。日本語なら30秒しない会話が、時には5分以上かかりました。僕の挑戦はこれからも続きます。

私のホストファミリー

僕がお世話になったホストファミリーはエバンスさん一家で、5人家族と犬1匹です。お父さんはライアン(40歳)で学校の先生です。お母さんはマイカ(39歳)で学校の先生です。子ども達は、長男エイジェイ(11歳)、二男サミュエル(9歳)、長女コレットはホームステイ中に4歳を迎えました。素敵なホストファミリーで、とても優しく接してくれました。最初はコミュニケーションを取るのが大変でしたが、サミュエルが積極的に話しかけてくれたので、そこから家族とのコミュニケーションが広がっていきました。

エバンス一家はコロラドの大自然を思いっきり楽しむ家族で、山登りや釣りをすることが好きでした。事前のメールで、釣り上げた大きなマスをサミュエルが両腕に抱えている写真を見て驚きました。驚くことは沢山ありましたが、やはり日本とは違い家が大きく広いことです。家は平屋建てですが、地下室があります。子ども達の部屋が地下室でした。湿度が低いグリーリーでは地下室も快適でした。広い庭では、ジップラインを楽しむことや大きなビニール製のプールで遊ぶことができました。僕には本当に素晴らしいホストファミリーでした。

大変だったこと

やはり英語で会話することが難しかったです。コミュニケーションを取ると言えば簡単そうですが、なかなか上手くいきません。事前研修で練習したことや自分でも繰り返し練習してきたことが、いざ外国人を前にすると頭が真っ白になり、言葉は全く出てきませんでした。しかし、ホストファミリーが理解してくれようと耳を傾けてくれるので、一生懸命に思いつく単語やジェスチャーをして、何とか通じるような状態でした。ホストファミリーが耳を傾けてくれているのに、自分で言いたいことが言えないもどかしさが毎日のようにありました。このもどかしさを解消するためにも、英語をもっと勉強していきます。



Evans ファミリーとの約束

僕は、この青少年海外派遣のおかげで、アメリカにかけがえのない家族ができ、素晴らしい思い出がたくさんできました。最終日には、この家族と離れたくないと本当に思いました。滞在期間は短かったですが、とても濃い時間を Evans ファミリーと過ごすことができました。本当に参加して良かったです。振り返ると、初めての海外旅行で緊張の連続でした。成田国際空港では、日本に到着した大勢の外国人がいて、その光景を見ただけでも興奮しました。ついにアメリカに行けるという実感と、わくわくする興奮が入り乱れていました。デンバー行きの機内では、映画やゲームができたのであつという間に時間は過ぎていきました。機内のアナウンスで間もなく空港に到着することが分ると、不安がよぎりました。事前のメールで Evans ファミリーの写真は色々を見ていたが、どんな家族だろうと考えると沸々と不安が膨れ上がってきました。しかし、入国審査を通過して空港の外に出ると、日本とは違う広大な風景に圧倒され不安は吹き飛びました。

グリーリー市では日本車が多いと聞いていたので、よく街を観察しました。トヨタ、ニッサン、スバルが走っていました。僕の主観ですが、半分以上は日本車だと感じました。日本はアメリカで頑張っているなと思いました。

ホストファミリーとの対面式は本当に緊張しました。しかし、写真の通りの顔が目の前にあったので安心半分、緊張半分になりました。この瞬間から本当の意味で Evans ファミリーとの交流が始まったのです。滞在期間中は、ここには書ききれないくらいお世話になりましたが、特に思い出深いことは、日本のハンバーガーよりボリュームがあるハンバーガーを食べに行ったことや、あまり言葉を必要としないチェスをして過ごしたことです。特にチェスをしたことで、よりコミュニケーションが深まったような気がします。

Evans ファミリーに連れて行ってもらった所では、ロデオが大変面白かったです。自分がロデオをやったわけではありませんが、カウボーイと予測不可能な動きをする馬との駆け引きは、見ていてとても楽しく、飽きることはありませんでした。また、ロッキー山脈では、とても広大な風景を堪能することができ、小動物が近くで見られてとても貴重な体験をすることができました。

Evans ファミリーからは、15 歳くらいでもう一度アメリカに来るように言われ、必ず来ると約束をしました。その約束を実現させ、英語でコミュニケーションが取れるように、これからはもっと英語を勉強していきます。





守谷市立
けやき台中学校
2年 久保田 智博

アメリカで挑戦したこと

私がアメリカで挑戦したことは、言葉が出てこない時でもジェスチャーなどを使い会話を止めないようにすることです。

初めてホストファミリーに会った時、子どもたちは日本の学校についてとても興味を持っていました。そこでお互いの学校について話しました。

その会話はつかえることのない、楽しいものでした。しかし、大人の人が振ってくる話は難しいものが多く、言葉が出てきませんでした。そこで、ジェスチャーを使ってみると、言葉を使っていないのに、自分の思いが通じて驚きました。同時にジェスチャーの偉大さを痛感しました。

私のホストファミリー

私のホストファミリーは、優しくて明るい家庭でした。また、父親は実質社長、母親は歯医者で、裕福な半面、日中は両親がいない時も多くありました。そんな時は、ベビーシッターに見てもらい、私たち子どもは、いつも家や外で遊んでいました。また、隣人とも仲が良く、道路脇で野球などをして遊びました。子どもは4人もいて、家には様々なボードゲームがあり、私はチェスをしました。更に、子どもたちは折り紙を気に入ってくれたらしく、家での時間の殆どをそれで使ってしまいました。

私の家の人みんな料理が大好きで、ナイフだけで10種類以上、調理器具を全て合わせると50種類近くありました。とても便利な物からユニークな物まで様々な物があり、まるでレストランのようで大げさに驚いてしまいました。腕の方も素晴らしく、お父さんのステーキやお母さんのパスタ、おばあちゃんのアップルパイは絶品で、アメリカの食事の思い出を最高のものにしてくれました。さらに私と子どもで朝食を作らせていただきました。

大変だったこと

大変だったなと感じたことは英語で何かを教えたり、理解してもらったりすることです。私は日本にあってアメリカにないものを沢山教えました。その時は比較して説明する文法が分からなかったのも、ジェスチャーを使いました。それは相手の知らないことを説明する作業だったのでとても苦労しました。

折り紙の折り方を教えるのもまた大変でした。折り紙は、形を作れば、賢い長男が正しい英語で他の子に説明してくれたので、皆で同じ物を作ることができました。



最初で最高のホームステイ

私は事前研修で沢山のことを学びました。現地の様子、食べ物、マナー、生活の常識などです。現地で様々な場面に対応するための英文の表やプチテストで、市役所の方やゲストティーチャーにサポートして頂きましたが、出発前は不安でした。また、ゲストティーチャーから外国人はとても速く英語を話すと聞いていたので、聞き取れるかととても心配でした。

自分が最初に会話をしなければならなかったのは、飛行機の中で異臭を放つブランケットを交換してもらう時でした。この時は、簡単な単語だけで会話ができた、少し安心しました。時差ボケにはならず具合も悪くならなかったのも、現地での生活は快適でした。その後の全体行動は、疲労で遅れたり眠ってしまったりしました。グリーリーの気候は日本の夏より涼しく夜は寒いくらいでした。

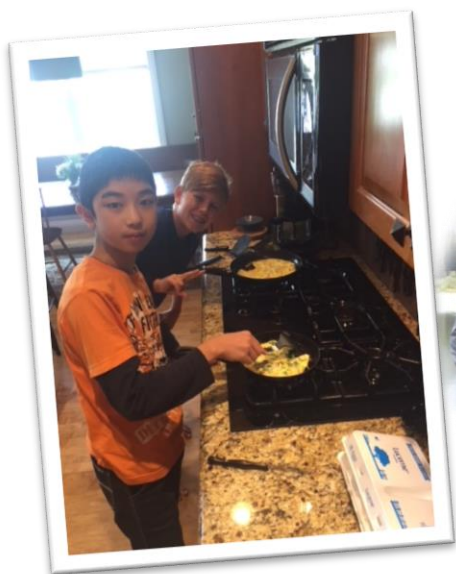
ホストファミリーとは会った時から恥ずかしがらずに話せて、すぐ仲良くなれました。グリーリーでの最初の数日間は、団員と会い、日本人の仲間がいる安心感を持ちながら活動できました。

そして、ホストファミリーと終日過ごしたいと思い始めた頃に「終日ホームステイ」の日を迎え、アメリカらしい一日を過ごせました。その日はロッキー山脈へ行き、商店街を歩いたり湖でハイキングしたりしてアメリカの文化と自然を満喫しました。

次の日は教会に行きました。教会は厳かで神聖な所だと思っていましたが、子どもは遊び大人は楽しそうに話していて、集会場のように感じました。他にも、色々なレストランに連れて行ってくれました。

フェアウェルパーティーは、出し物が盛り上がり楽しいパーティーになりました。しかし、まだ本当に別れるという実感が湧かなくて、翌朝に家を出てやっと悲しく寂しくなりました。日本に着き我が家に帰ると逆に他所の家に来たように感じました。

私はこの体験を通してアメリカの文化や日本との違い、自然を知ることができました。さらに、日本の家族の温かさや素晴らしさなどが分かりました。この経験を糧として、今後の人生に役立させていきたいです。





守谷市立
けやき台中学校
2年 齋藤 夢七

アメリカで挑戦したこと

まずは「恥ずかしがらず、積極的に英語を話す」という目標を達成することに挑戦しました。アメリカにいられるのは1週間しかないで、話さないともったいない！と思ってこの目標を立てました。文法が苦手なので、とりあえず自分の知っている文に単語を付け足して話しました。また、土足で室内に上がることや別れ際にハグをしたりする文化に慣れる努力をしました。

私のホストファミリー

お母さん/壽美子さん・お父さん/グレイグ・お姉ちゃん/アイリ・妹/エナの4人家族でした。

壽美子さんは日本人でとても明るく元気な人です。最初はとても緊張していたけど、盛り上げて話をしてくれたおかげで、笑顔で気楽に話せるようになりました。また、買い物などにも付き合ってくれて、日本人の目線で「これ珍しいと思うよ!」と色々なアドバイスをくれました。職場の大学にも連れて行ってくれて、仕事のことや大学の中の説明もしてくれました。

グレイグは色々な所に連れて行ってくれて、その場所の説明などを詳しくしてくれました。家にいる時も話しかけてくれて、私の分からない英語があると「こうかな?」と助けて教えてくれました。

アイリは日本語が上手で、最初困っていた私に日本語で声をかけてくれました。英語でも、家の中の案内などをしてくれました。

エナはとても優しく、アーチェリーの仕方や、日本にはない食べ物の作り方などを教えてくれました。2人はシャイだけどとても可愛いです。ギブソン家はとても明るく仲の良い家族でした。

大変だったこと

アメリカに行ってから書いたサンキューメッセージが大変でした。1つ目は時間がなかったことです。夜は買い物、ミュージカルなどに行って、帰ってくると疲れていて寝てしまうことが多かったからです。もう1つは書くスペースがなかったことです。大切な手紙なので折れたりしないようにしたかったけど、どうしても床の上やベッドの上になってしまったからです。



アメリカでの新しい発見

私はアメリカから帰って来て、「もっと外国の文化を知って英語を勉強したい！」と思いました。アメリカでは必然的に英語を使わなくてはいけないので、過ごしているうちに、思った文章が勝手に頭の中で変換されるようになりました。そうすると、英語で話すのがすごく楽しくなりました。

また、アメリカの人はみんなフレンドリーで優しいことに感動しました。団員のみんなとショッピングセンターに行った時、全く知らない店員さんが「調子はどう？良い一日を！」と言ってくれて、すごく優しさを感じました。それから、グレイグの知り合いのお通夜に行った時は、「あなた日本人？いつまでいるの？アメリカはどう？」と気軽にたくさんの人が話しかけてくれました。帰る時も「アメリカを楽しんで！」と言ってハグをしてくれました。日本ではなかなかないこの体験に、すごく感動しました。また、日本のお通夜とは全く違って暗い雰囲気は一切なく、みんなが思い出話をしたり料理を食べたりしていました。そんな文化の違いもとても面白いと思いました。

それから、食事にも日本と違うところがありました。外食がとて多くて家で食べる時も、温めるだけ、水を入れるだけなどばかりでした。朝食も家族全員で揃って食べることはなく、起きた人からセルフでシリアルなどを食べる感じでした。レストランではバイキング形式で色々なアメリカ特有の料理がありました。興味深いと同時に、日本の家族全員で食卓を囲むのは幸せなことだと思いました。こんな文化の違いをもっと学んでいきたいです。

私の将来の夢は飛行機の整備士又は英語に関する仕事をする事です。もちろん整備士になる夢も諦めていませんが、この海外派遣事業に参加して、英語を話すことが楽しく、そして身近になりました。また、違う文化の中で生活することにも興味が出てきました。この貴重な体験を人生の宝物とし、将来の夢を叶え、活かしていきたいです。





茨城県立
竹園高等学校
1年 平林 優里

アメリカで挑戦したこと

たった一週間という本当に短い期間なので、言葉が分からなくてもとりあえず何か反応して、最初からたくさん話すことを心がけました。自分の英語が思うように伝わらないことや文章で伝えられないことも多かったですが、自分が知っている単語やジェスチャーでなんとか伝えようと頑張りました。すると意外に簡単な英語だけで会話が続き、自分の言いたいことが相手に伝わった時は嬉しかったです。また、現地の人はとてもフレンドリーなので、積極的に挨拶することも心がけました。

私のホストファミリー

私のホストファミリーは4人家族で父のJeffreyと母のJamie、姉のHaleyと妹のCadyのとても温かい家族でした。トランポリンを一緒にしたり、テニスをしたり、折り紙を折ったり、Tシャツを作ったり、映画を見たり、クッキーを作ったり、色々なことに誘ってくれたので、自分の部屋にいることはほとんどなく家族とたくさんの時間を楽しく過ごすことができました。また、英語があまり聞き取れなくて全然会話できないかもと心配していましたが、ゆっくり話してくれたり、分かりやすい英文に変えて色々なことを質問してくれたりしたので、会話が弾み、自分からも質問することができました。HaleyとCadyは近い年齢ということもあり話やすく、お互いに好きなスポーツで一緒に遊んだり、日本語を教えたりしてとても楽しかったです。2人とも日本語にすごく興味を示してくれて、挨拶や敬語、ひらがなとカタカナと漢字があることや、HaleyとCadyをひらがなとカタカナにしたらどうなるのかを教えてあげました。とても楽しかったです。家族全員ほんとうに親切で楽しい家族でした。

大変だったこと

お店に食べに行った時に食べ物の名前だけで、写真が載っていなかったののでどういう食べ物か分からず、分からないまま頼んでしまうことが多かったです。また、英語のスピードが速すぎて、聞き返しても何を言っているのかが分からない時もあり、対応に困ってしまうこともありました。また、私のホストファミリーは9時半には真っ暗になって寝てしまうので、なるべく音を立てないようにお風呂に入ったりドライヤーをしたりしました。



一生の宝物

私は今回の事業が初めての海外だったので、アメリカへ着いた時はとても広くて、夜8時くらいまで明るくて、信号機が縦で、車が右側を走っていて、と驚いたり不思議な感じがすることがたくさんありました。ホストファミリーに会う直前のバスの中ではとても緊張していて、会ったら何と言うかを他の団員と一緒に何回も繰り返して練習していましたが、実際に会うととても緊張してしまい、練習していたことが言えず、なかなか緊張がほぐれませんでした。しかし、すぐに Haley と Cady が話しかけてくれたので、そこで緊張は一気になりました。家に着くとすぐにトランポリンをやろう！と言われ、短時間ですぐに仲良くなれました。

ファンプレックスでは、自分の好きなバスケやバレー、プールや鬼ごっこをして、他の団員のホームステイ先の子とも話して交流することができて、とても楽しかったです。終日ホームステイでは、ワイオミング州のシャイアン フロンティア デイズという伝統的なイベントで、アメリカ先住民の村やロデオの見学や遊園地のような所に行きました。そこには日本にはないような絶叫マシンがあり、乗っている時は気持ち悪くなったけれど、Haley と Cady と絶叫しながら本当に楽しめました。これらの他にも、家では Haley と Cady の友達が遊びに来てくれて、バレーやゲーム、Tシャツ作りを一緒にしました。友達は笑顔で「Hi, what's your name?」と言ってきて、本当に優しい人たちばかりだなと思いました。それだけでなく、Jeffrey が店員の人に買いたい物がどこにあるのかを聞く時にも最初に「Hi!」と言ってから聞いたり、ロッキー山脈へ行った時もすれ違う度に「Good morning!」「Hi!」など声をかけたりしてくれて、その優しさからみんなが繋がっているということを強く感じました。また、言葉で通じ合えなくても、心は通じ合えるということを強く実感しました。

今回の事業に参加して、私は思っていた以上に心に強いものを感じ、感動しました。また、もっと英語を話せるようになって、もう一度グリーリーへ行きたいと思える、本当に素晴らしい経験ができました。この経験は私の一生の宝物です。





江戸川学園
取手高等学校
1年 中村 叶恵

アメリカで挑戦したこと

私は、もし相手が何を言っているのか理解できていなくても、話しかけられたら必ず何かしらの反応をするようにしました。こんなに英語に溺れることができる環境なんてめったにない上、自分に話しかけてくれた人への最低限の礼儀だと思ったからです。実際、何を言っているのか、フィーリングでしか理解できないことは多々ありました。ですが、その時に私が軽く微笑むと、相手も笑ってくれました。

私のホストファミリー

私が一週間お世話になったのは、Scott ファミリーでした。ホストファミリーは5人いて、全員が対面式に出席して私のことを明るく迎えてくれました。特に、ホストファザーの Ron とホストマザーの Toshimi とホストシスターの Saffron とは、よく一緒に行動しました。

また、家には犬やニワトリ、アヒル、ヘビ、モルモットなどのたくさんのペットがいました。私はペットを飼っていないので、たくさんの動物に囲まれて過ごすのはとても新鮮でした。

大変だったこと

最初の頃は、英語を聞き取り、理解することが大変でした。特に初日は機内食のメニューを選ぶ時や、アメリカの保安検査で入国する理由を聞かれた時に、上手く聞き取ることができずに少し戸惑ってしまったことを覚えています。ですが、アメリカで過ごすうちに自然と耳が慣れてきたのか、少しずつ聞き取れるようになりました。英語を聞き取ることができるようになると、現地の人たちと会話をするのが楽しくなりました。



異文化を肌で感じた 1 週間

私はこの海外派遣で、たくさんの異文化に触れました。

初日、グリーリーに向かっている時、車が右側を走っていることに気づき、違和感を抱きました。また、日本よりも道が凸凹していました。ホテルでは、シャワーの出し方が分からずに苦戦したのを覚えています。

2日目にはホストファミリーと対面した後、とある日本料理店に行きました。そこでは「火鉢」を提供していると書いてあったのですが、ここでの「火鉢」は「鉄板焼き」を表していました。さらに、寿司は海苔が内側に巻かれていて、日本の寿司との差を感じました。

3日目の午後に地元の子どもたちと交流しましたが、私のテーブルには日本人が私しかおらず、最初は不安でしたが、私が言葉に詰まったとき、何を言おうとしているのか、現地の子どもたちが汲み取ろうとしてくれたので、楽しくコミュニケーションをとることができました。

4日目の夜に、ホストファミリーと UNC のミュージカルを見に行きました。ところどころ何をしているのか分かりませんでした。大学生とは思えないほどの演技力に感動しました。

5日目には買い物に行きました。そのうちの一つのお店ではたくさんの銃器が売られていて、ここがアメリカであることを改めて感じました。

6日目に私は、ベビーシャワーに行きました。これは、出産の前に行うパーティーのようなものです。会場となった家では、ヘリウムで膨らませたたくさんの風船を飾りました。日本のお祝いとはかなり違って新鮮でした。

7日目の夜のフェアウェルパーティーでは、アメリカで過ごす最後の夜をみんなで楽しみました。翌朝にはホストファミリーと別れ、アメリカを離れなくてはいけないと思うと少し悲しかったです。

グローバル化が進んでいるこの現代、そして高校一年生という多感な時期にこの海外派遣事業に参加し、たくさんのことを学ぶことができ嬉しく思います。この貴重な体験を活かし、将来、世界に通用することのできる人材になりたいです。





茨城県立
牛久栄進高等学校
2年 谷口 日菜

アメリカで挑戦したこと

私がアメリカで挑戦したことは積極的に感謝を伝えることです。自分のホストファミリーにはもちろん、食事の用意やバスでの送迎などをしてもらったグリーリー市の役員の方々に、自分から自分の知っている言葉の範囲で感謝を伝えました。私の英語は正しいものではなかったかもしれませんが、みんな笑顔で答えてくれました。また、なるべく笑顔でいるようにしました。そうしたら、周りの人も笑顔を返してくれました。

私のホストファミリー

私のホストファミリーは6人家族でした。

Addison はニックネームが Addie で、ずっと Addie と呼んでいました。とても大人っぽくて、私の面倒をよく見てくれました。日本語を勉強していて、日本が大好きだそうです。サンリオのぐでたまのグッズをたくさん持っていました。また、絵がとても上手で、小さなイラストノートを持ち歩いていました。

お兄さんの Hunter はたくさんの才能を持っていて、空手ができて、理系科目がとっても得意で、機械を操作するのが好きです。彼の机にはパソコンが3台もありました。とても頭が良いです。

お母さんの Jane はとても面白いお母さんで、話すのが大好きです。私によく話しかけてくれて、よく笑わせてくれました。絵の先生でもあり、私の両親に絵をプレゼントしてくれました。お父さんの Christopher は医療関係の仕事で、毎日忙しそうでした。笑顔が素敵で、よく笑いかけてくれました。ペット(犬)の Ginger は生まれて6ヶ月とは思えないほど大きく、May は大人しくて賢い10歳のおばあちゃん犬です。とても仲が良い家族でした。

大変だったこと

ホームステイで大変だったことは、用意してくれていた、ボディーソープが全然泡立たなかったことです。何かおかしいと思いながら1週間過ごしていました。ちゃんと聞き直せばよかったなと後悔しています。また、自分で日本から持参しておけばよかったなとも思います。途中で一度体調が悪くなり、引率の方が持っていた薬で治りましたが、大丈夫と思わず、様々な薬を用意しておくべきです。帰りに重量オーバーしました。口が閉まる手提げを予備で持っておくべきでした。



私がアメリカで経験したこと

私は今回とても良い経験をさせていただきました。私は大きく分けて4つの経験をし、驚きました。まず1つ目の経験は、時差ボケです。コロラド州のデンバーと日本は15時間の時差があります。夕方の便で日本を出て、フライト時間は約10時間、しかし到着するのは、日本を出発した日のお昼でした。プチタイムトラベルでした。他の人より長い1日だ！と、優越感に浸っていました。しかし、数日間は夜に眠れなくなってしまいました。

2つ目は、多くの自然を観られたことです。私は毎日ホストファミリーの家の犬の散歩に行っていたのですが、少し歩くだけでリスがいたり、うさぎがいたりしました。また、ハイキングに連れて行ってもらった時に、リスや鳥がものすごく近くにいました。食べていたパンを少しあげようとすると、リスは手で受け取ってくれ、とても癒されました。また、滞在中に雹が2度も降りました。私は日本で雹を見たことがなかったので、とても興奮しました。止んだ後に Addie と外に出て、雹をかき集めたり、雲を観察したりしました。稲妻をはっきり見ることができて、自然は恐ろしく、そして美しいと感じました。

3つ目は文化の違いを感じられたことです。大きなショッピングセンターで銃が売っていたり、人々が刃物を持ち歩いていたりました。このことが、文化の違いを大きく感じたことでした。

4つ目はアメリカの人はみんなフレンドリーだと分かったことです。買い物に行った時、店員さんが「Have a nice day!」と声をかけてくれます。一緒に散歩に行った時、すれ違う人みんなが「good morning!」と言ってくれました。日本ではないことだったので、驚きました。

私のお世話になった家庭はとても仲が良く、食事中はテレビを点けずに会話を楽しみ、「おいしかったよ、ありがとう」と毎日お母さんに伝えていました。日本ではいつもテレビを見ていて、会話が少なくなっていると気づきました。アメリカで良い文化、習慣を体験できたので、日本の生活の中でも取り入れていきたいと思います。





茨城県立
竹園高等学校
2年 登内 洸陽

アメリカで挑戦したこと

私はアメリカで、積極的に人々と会話をしようと努めました。ロッキー山脈国立公園を訪れた際、すれ違う度に観光客は「Hello」と声を掛けてくれ、アメリカの方々はとてもフレンドリーであると感じました。そこで自分も社交的になろうという気持ちが芽生え、自分のホストファミリーだけでなく、現地の市役所の方々や他のホストファミリーとの関わりを持ち、様々な活動を通して親しくなることができました。

私のホストファミリー

私のホストファミリーはジョエルとその奥さんのローレンで、2匹の犬を飼っていました。2人とも旅が好きで、旅は私の趣味でもあったので、旅行での経験を語り合って非常に盛り上がりました。特にジョエルは過去に日本を訪れたことがあり、その際に経験した他の国の方ならではの話を聞くことができました。2匹の犬はとても人懐っこく、ホームステイの1日目で仲良くなりました。

大変だったこと

大変だったことは英語でのコミュニケーションです。私は中学1年生の頃から、学校のみならず家庭でも英語を学んできました。実際に現地の人同士の会話を聞いていると、流れるような英語が飛び交い理解できませんでした。そのような経験から最初は非常に不安でしたが聞き取れないときはもう一度ゆっくり話してもらい、身ぶり手ぶりを使って意思を伝えることが出来ました。



国際交流で学んだこと

私は国際交流に興味があり、この海外派遣を非常に楽しみにしており、アメリカの方々と生活を共にして、アメリカの文化や習慣を肌で感じようという意思で参加しました。ホームステイ中は積極的に現地の人々に話しかけ、アメリカについて多くを学ぼうとしました。

しかし、現地のことについて知ろうとする積極性は良かったものの、アメリカの方々に日本について伝えることがあまりできなかったと感じています。私のホストファミリーは日本にとっても興味があり、日本の漫画や映画、歴史の本などを多く持っていました。そして日本の歴史上の人物についての様々な質問をされましたが、いくつかは答えることができず、申し訳ない気持ちになりました。このことから、国際交流をする上では現地について学ぼうとする意志だけではなく、自国について伝える知識が必要で、それによってお互いの国を理解し合えるのだということを感じました。

2020年には東京でオリンピックが開かれ、他の国から多くの人々が日本に来ると思うので日本の歴史や文化、習慣について学び、互いをわかり合えるようにしたいです。

滞在は約一週間という短い期間でしたが、多くのことを経験し、様々なことを学びました。これらを今後の人生に活かしていきたいと思います。また、今回の海外派遣に携わってくださった方々、良い経験をさせて頂きありがとうございました。





茨城県立
竹園高等学校
2年 新田 悠磨

アメリカで挑戦したこと

グリーリー市に出発する前、今の自分の英会話力がどこまで通用するのか挑戦してみたいと思い、出来るだけ電子辞書や翻訳アプリを使わないようにと心に決めていました。実際に、ホームステイ中はこれらの道具に頼ることなく、ホストファミリー夫妻との会話を楽しむことができました。どうしても分からない単語があった時には、自分の知っている単語を使って、自分の言いたいことを伝えることができました。また、なるべく多くの人と会話を楽しめるように、自分から積極的に話しかけるように心がけました。相手の話の内容を理解することができないことも多々ありましたが、とても貴重な体験でした。

私のホストファミリー

僕がホームステイをさせていただいたホストファミリーの Cassday 家は、Robb さんと Merkey さんの夫婦でした。2人には2人の息子さんと4人のお孫さんがいます。

長男の Bryan さんはグリーリー市で歯医者をしています。僕がホームステイをしている時はご家族でハワイでのバカンスを楽しんでいたため、お会いすることはできませんでした。しかし、Bryan さんの職場とご自宅を見せていただきました。次男の Matthew さんはデンバーで理学療法士をしています。ロッキー山脈の Estes Park に連れて行ってもらった際にお会いすることができました。双子の10歳の女の子も一緒でした。Robb さんはグリーリー市で設計会社を営んでいます。70歳を過ぎた現在も現役で働いていて、グリーリー市にある建物や記念碑の設計に携わっています。趣味は釣りで、Robb さんの会社の社長室には、釣り上げた魚の写真が数多く飾られていました。Merkey さんはグリーリー市の銀行で働いていましたが、現在は退職されています。ガーデニングが趣味で、広大な庭には Merkey さんが手入れをしている綺麗な花がたくさん咲いていました。

大変だったこと

行く前から想像はしていましたが、やはり英語でのコミュニケーションに苦労しました。ホストファミリーの方を初め、多くの方が積極的に話しかけてもらえたのですが、相手の言っていることが聞き取れなかったり、理解できなかったりして聞き返してしまうことがたくさんありました。

また、自分の思ったことを伝えるのにも苦労しました。最初の方は単語での返答しかできませんでした。しかし会話をしているうちに、片言ながらも、文章での返答と質問が出来るようになりました。



充実した 1 週間

「来年は受験だし、挑戦してみたら。」母のこの言葉が今年の夏は何か新しいことチャレンジしたいと思っていた僕の背中を押してくれました。面接を経て、少ない定員枠を勝ち取った時、内心は喜びよりも戸惑いの方が強かったです。自分の英会話力がアメリカで通用するのか、これが一番の心配でした。しかし、事前研修を重ね、様々な人の話を聞いているうちに、「まずは楽しんでこよう！あとはなんとかなる！」という非常にポジティブな気持ちが湧いてきました。

アメリカで見たもの、聞いたもの、感じたものは全てが初めての事ばかりで、驚きの連続でした。店で平然と売られている銃や、センターピボット式の広大な畑。日本では見ることのできない光景がそこには広がっていました。僕が特に驚いた事は、教会に連れて行ってもらった時のことです。教会では小さな子から年配の方まで、様々な人種の方たちが熱心に牧師さんの話に耳を傾け、みんなで賛美歌を歌っていました。どちらかと言えば、宗教に対して関心が薄かった僕は、この光景にとっても心を動かされました。彼らにとって、教会に行くことや祈ることは生活の一部であり、そして自らを支え、心を穏やかに保つためのとても大きな存在であるのだと感じました。

一番心配していた英語でのコミュニケーションは、どんな手段であれどうにか伝える、という強い決意からか本当にどうにかなりました。多くの人と話をしているうちに、だんだんと耳が慣れて行き、相手の話す内容が理解できるようになっていました。また、自分の意見や質問も片言ながらも表現できるようになりました。

母からの一言で参加を決意したアメリカホームステイでしたが、この感想文を書いている今、参加することができて本当に良かったと思います。本物の英語に触れることで、英語でのコミュニケーション能力だけでなくちょっとした根性も鍛えることができました。

これからも様々な事にチャレンジしていきたいと思わせてくれた守谷市の本事業と、温かく迎えてくれたホストファミリーの方々に心から感謝しています。



Cool Greeley!

2018 年 青少年海外派遣事業 団長 川村 玲子（守谷市国際交流協会）

屋根を打つ激しい音，ゴルフボール大の白い塊があつという間に道路を埋め尽くす。

ホストファミリーと過ごす最後の夜に経験した雹のビッグサプライズは、生涯忘れられない思い出となりました。

7月23日、団員及び我々引率者含めた総勢11名でグリーリーを目指し出発しました。私自身20代に約1年間イギリスでホームステイをした経験はありましたが、学生の引率は初めての経験でした。

団員との初めての顔合わせに始まった全6回の研修は、私自身期待感と不安が入り混じった時間でした。研修の内容は学生たちに自主性や、積極性等が求められるものも多く、決して容易なものではなかったと思います。研修中、講師等の問いかけにも周りの反応を見ながら答える彼らを見て、ホームステイ先でちゃんとやっていけるのだろうかと思いましたが、これは後になって杞憂だと分かりました。

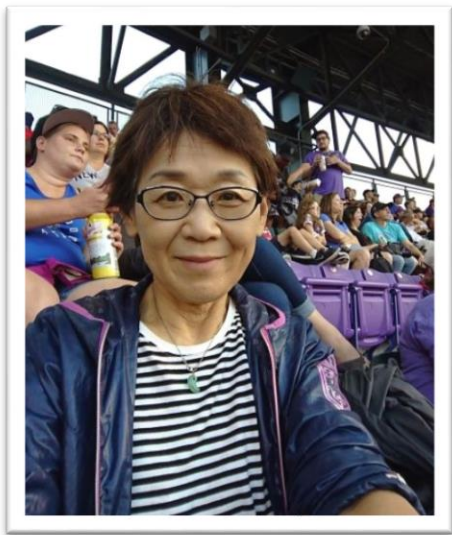
最初はぎこちなかった団員達も、フェアウェルパーティーでの演目の準備を彼ら自身で行っていくうちに、団結力も生まれ、自信もついてきたようです。引率者は団員達の自主性を信じ、見守っていくことが大事なことだと教えられました。

デンバー空港で、この旅のコーディネーター役のマリさん、モーガンさんのお二人の出迎えを受け、一路グリーリーへ。当日はホテルに一泊した後、翌日北コロラド大学を訪問。キャンパスツアーの前に英語でのコミュニケーションに関するレクチャーを全員で受講しました。特に”Find someone who…”というゲームは、ホストファミリーと英語でコミュニケーション生活を始める団員にとってとても良く考えられたウォーミングアップだったと思います。

鉄道博物館見学後、Union Colony Civic Centerに到着すると、既に入り口でホストファミリーが我々の到着を待っていてくれました。団員達の緊張が高まる一瞬です。大事に育てた稚魚を海に

放つ時のように、大きく育て戻って来てほしいとの想いでホストファミリーと去っていく団員達を見送りましたが、翌日会った団員たちはこちらの心配を見事覆し、元気な笑顔を見せてくれました。

私のホストファミリーは、今回3回目の受け入れになるKenとSandyの年配のご夫婦。事前に12回にわたってメール交換したせいもあり、初めて会ったとは思えない、不思議な既視感をもった対面でした。好奇心旺盛、ボランティア精神にあふれた方達で常に愛情細かな配慮をして頂き、とても快適で気持ちの良い毎日を過ごすことが出来ました。





日本食にもとても関心があり、お好み焼きのレシピ用に、前もって薄切りの豚肉とキャベツが用意してあったのには驚きました。

グリーリー市については、特に週末に行われた「アートピクニック」が印象に残りました。地域振興が日本でも叫ばれていますが、このフェスティバルはすでに40年近くの歴史があり、グリーリー市民をはじめ国内から2日で2万人以上の人々が訪れ、アーティスト

トたちとの交流を楽しむことが出来ます。市内には数多い彫刻があちらこちらに飾られ、市民の目を楽しませています。私もホストファミリーに案内して頂き、たくさん写真を撮りました。

フェアウェルパーティーでは、この日の演目のために何度も練習を重ねた団員たち。見事に成功させたことは、大きな自信になったことでしょう。ホストファミリーへのサンキューメッセージでは、「今度は自分がホストファミリーになってグリーリーの学生たちをおもてなししたい」と、感謝を述べる団員の言葉に胸が熱くなりました。今度はこの温かいおもてなしに感謝し、両市がさらにより良い関係を保てるよう橋渡しのお手伝いをして頂けたら、こんなに嬉しいことはありません。



最後に、この事業実施に関わってくださった全ての皆様に感謝の意を表したいと思います。保護者の皆様はじめ、長年にわたりご協力頂いている守谷市国際交流協会の皆様、研修中終始付き添っていただいた市民協働推進課の川崎さん、小川さん、ルイーザさんには大変お世話になりました。さらに引率者の塚田さん、添乗員の柴さん、お二人のきめ細かい心遣いに心から感謝申し上げます。



たくさんの経験をして得た大きな成長

2018 年青少年海外派遣事業 引率 塚田 早紀（守谷市役所 税務課）

「え、私がグリーリーの引率をするの!？」

本事業の引率の話を聞いた時に頭に浮かんだ言葉でした。海外派遣の引率は、「団員の引率をすること」と「自分も団員としてホームステイすること」という2つの側面があります。私は英語が堪能とは到底言えず、果たして自分に務まるのだろうかと一晩悩みました。しかし、心のどこかに挑戦してみたいという思いがあり、引き受けることにしました。

団員の選考を経て、派遣団員ときちんと顔を合わせたのは、6月3日の第1回事前研修の時でした。団員はみんな緊張しており、声が小さく、意見を求めてもなかなか出てきません。その後何度か研修を重ねましたが、やはり団員の声は小さく、大人ばかりが声を出す状況になってしまいました。このままグリーリーに行って大丈夫なのだろうか。そこで、団長や担当者と話し合い、団員を信じて、団員から声が出るのを待つことにしました。

そこからです。団員の顔つきが変わったのは。フェアウェルパーティーの出し物について話し合いをする時も、みんなで意見を出し合い、着々と準備をしていきます。各自が、自分がグリーリーに行くという意識を持って取り組んでいる姿が印象的でした。出発前に出し物の準備についてある団員に聞いてみたところ、「準備はほぼ終わっています。」と返ってきました。なんと心強いことでしょう。この派遣団なら大丈夫。そんな自信を持って、7月23日、グリーリーへと旅立ちました。

グリーリーに着きホームステイが始まるまで、グリーリー市役所の方にお会いし、大学で特別講義を受け、博物館を見学しました。度々英語で話し掛けていただくのですが、みんな緊張してなかなか言葉が出ません。私も不慣れな英語に悪戦苦闘し、なかなか上手く話せませんでした。

そして、いよいよホストファミリーと対面し、それぞれの家に向かいました。次に団員と会うのは次の日の朝です。それまで日本人は誰も助けてくれません。心配な気持ちで団員としばしのお別れをしました。

次の日の朝、集合場所に行ってみると、団員の顔にまだ緊張が滲んでいるようでした。「昨晩は

どうだった？」と聞いてみると、「Yes と No しか言えなかった。」との返答が。でも、ホームシックになったり体調を崩したりする団員がいなかったことに少し安堵しました。日中は川での昆虫採集や地元の子どもたちと工作をし、少しずつ英語を話す機会が増えていきました。まだ単語程度での会話がほとんどですが、段々と笑顔が増え、楽しそうに会話をする姿が見られました。





次の日の朝、また同じ質問を団員に聞いてみました。すると、「一緒に野球をした。」「映画を観に行った。」等、前日とは全く異なる答えでした。驚くほど変化しているのがよく分かりました。さらに次の日には、「こんな話をした。」等、もっと具体的な答えが返ってきました。

実際、日中のスケジュールの中でも、スポーツや買い物を通して、みんな

笑顔で英語を話し、話の内容を聞くと嬉しそうに教えてくれました。

団員が素敵な時間を過ごしている間、もちろん私もホストファミリーと素晴らしい時間を過ごしました。私のホストファミリーはKatrinaとJakeという、私と同年代のご夫婦でした。二人ともとても気さくな方で、朝起きると「Good morning! Could you sleep well?」と笑顔で声を掛けてくれます。二人だけでなく、訪問先で会う人、街ですれ違った知らない人、みんな気さくに声を掛けてくれます。これが本当に嬉しかったです。挨拶の大切さに改めて気付きました。



ホストファミリーの二人には、「普段二人が食べている物を食べ、スーパーに行き、普段二人がしていることをしたい。」とリクエストをしました。二人とも私の願いを受け入れてくれ、一緒にドイツ料理(Katrinaのご先祖はドイツ人だそうです)やピザを作り、普段食べているブリトーやベーグルなど肩肘張らない朝食を食べました。また、食事中はテレビのコメディ番組について等、他愛もない話をしました。アメリカの家庭の中に入れた気がして、本当に楽しかったです。Jakeのご両親とお兄様ご夫婦ともお会いしたのですが、皆さん優しくフレンドリーで、英語が分からず頑張って何かを話すと、必ず「Good!」と言ってくれました。それがとても嬉しく、私もそんな風に声を掛けられる人になりたいと思いました。

このように、団員も私も多くの経験をし、成長させていただいたグリーリーでの日々はあっという間に過ぎてしまいました。本当に素敵な思い出ばかりの場所から離れ難く、ホストファミリーと別れる時には思わず涙がこぼれました。

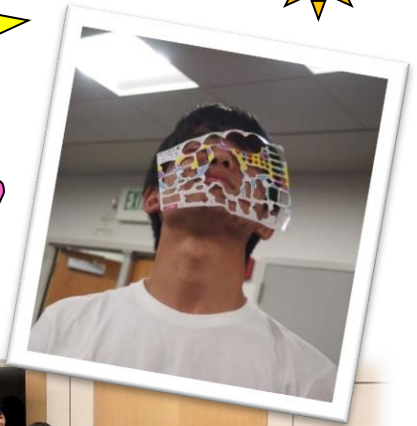
帰国して守谷市に戻り、すぐに帰国報告会がありました。その時の団員の力強い言葉から、事前研修を含め約2か月間、本当に成長したなと感慨深く感じられました。そして、私も彼らと同様に成長できたかなと自分に問うばかりでした。

このような素敵な機会を与えていただいた市民協働推進課の皆様、たくさんの素晴らしい体験を御用意くださったグリーリー市の皆様、本当にありがとうございました。英語を話せないにも関わらず、温かく迎え入れてくれたKatrinaとJake、そしてご家族の皆様、本当にありがとうございました。そして最後に、団長、団員の皆様、素晴らしい時間を共有できて、心から嬉しく思います。本当にありがとうございました。またどこかでお会いしましょう。



フォトメモリー





保護者の声

団員の保護者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します！



事前研修も行って頂き、派遣される意義を学んでから現地に行けたことは、未熟な子どもにとってとても有意義だったと思います。大体のことは子ども本人に任せたのですが、大きく成長して帰ってきました。



普通のホームステイに比べて、サポートが充実していて、親の不安があまりなかったです。子ども達にとって大変すばらしい事業で、これからも継続して欲しいです。TX 開通時に他県から引越してきましたが、『守谷に住んで良かった！！』と思いました！

プロフィールの提出などでパソコンの操作が必要でしたが、子どもはパソコンでの文章作成やメールの経験が少なく大変だったようです。また、子どもがホストファミリーと事前にメールでやり取りをしていたのですが、私たち（親）は英語が不慣れでアドバイスをあまりしてあげられず、もどかしく思いました。

研修と部活の日程や学校行事が重なり、子どもなりに色々と思うところはあったようです。

7泊9日の海外の子どもの宿泊は未経験のため、気候も踏まえた着替えの量が難しかったように感じます。

交流プログラムが組まれており、初めての海外でも不安なく過ごすことができ、一緒に参加した団員とも親しくなって、交流の幅を広げることができました。子どもの「行きたい」「やりたい」を聞き逃さず参加させることができ、親子共々この夏の目標を達成できました！



この事業を通して、初めて知り合う団員の皆さんと数回に及び事前研修で時間を共有し、準備を重ね、積極的に相手に伝えようとする姿勢を学んだと思います。異国の文化、そして日本にはないスケールの大自然に触れることができ、一生の宝物になったことは間違いありません。



編集後記

今回で 28 回目を迎えた守谷市青少年海外派遣事業。派遣先は、アメリカ合衆国コロラド州グリーリー市でした。広大な自然に囲まれたその土地は、派遣団員にとって決して忘れることのない最高の舞台になったことと思います。

今年もまだあどけなさの残る中学生から、頼れる高校生まで幅広い年齢の団員が集まりました。英語の勉強がスタートしたばかりの中学生も、英語学習においてはベテランの頼れる高校生も英語力とは関係なく、事前研修が始まったばかりの頃は、緊張のせいかこちらから問いや返事が欲しい場面でも反応が少なく、「ホームステイでの 9 日間を乗り切れるだろうか」と担当一同心配もしました。助け舟を出したくなる気持ちを抑え、団員の自主性に任せ見守っていると、研修の回数を重ねるごとに団員の様子が変わり、自らで考え、自らで行動するようになったように見受けられます。事前研修最終日にフェアウェルパーティーについて、創意工夫しようと熱心に話し合う姿は頼もしくさえ見えました。

ホームステイ中も引率者からの近況報告において、団員が日に日にアメリカに順応し、逞しくなっていることが伝わりました。さらに、帰国後の事後研修では、自分の将来のビジョンを堂々と話す派遣団員の姿を見ることができ、本事業に担当として関われたことを幸せに感じました。

今回、アメリカに派遣された団員の皆さんには、言葉の壁を越えて様々な人や文化と出会い、心と心を通わせたことを胸に、自分の将来のビジョンに向かって歩んで行ってほしいと思います。

最後になりましたが、団長として御尽力いただいた川村さんをはじめ、団員の選考から研修まで御協力いただいた守谷市国際交流協会の皆様に心から感謝申し上げます。

守谷市役所 生活経済部 市民協働推進課